



• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
JAPAN
TAMIA



明治三六年十月九日購入

南總里見八犬傳第九輯卷之二

東都曲亭主人編次

第九回 高曖の板橋よ道筋戰馬と放つ

五十子の城小信乃姓名と留む

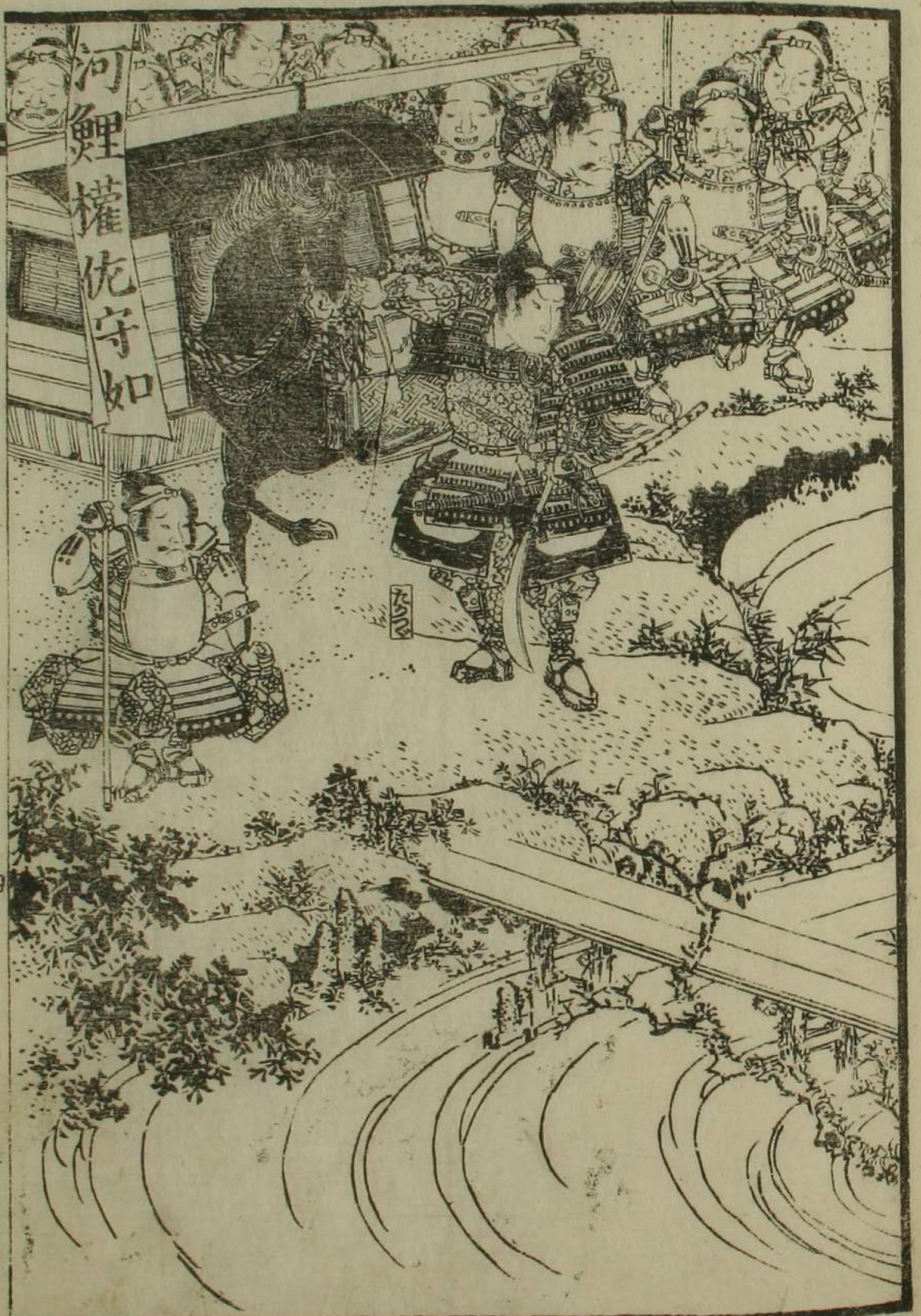
當下毛野へ慨然と孝嗣よち對ひて通ひ河鯉生恩の與す人命を擲り讐言の幕千を枕
矣。是戰國の慣老死して名と後小貽也。武吉欲す所されども亦時宜よ依る爲み和殿
せきよかたの。ありそなあらうらあらうらあらうら。まくつきよ
血氣の勇と肩みそぞ退くと羞え爲ふ戦殺せきゆるを大山ひす大人氣き。和殿と刃を交
矣。嗚呼痛い。守如要忠勇智計傳稀也。主君の與お奸黨と其不除を歛よる。その壽策
可との。原是機變計。仇子知らず魔鬼障も。天君を愛して乱を怕れ。の孽子と未然を查て
よ奸佞と除く。則は忠臣也。されど謨る所正理無く。機變を旨とせ。故より籌策成
る。及ばず。反て君を危く。自身を説害す。蟹且町の賢きも。俱ふ死然と爲ざり。とは是

隱匿の崇あるを。蓋天道の善小福也。必滌小禍も。滌の密は東隱匿。君の惑ひと醒。難て
已と。を。做へ。も。初。所機變。され。衆廢の崇と。爭。何せん然。と。况。校。兒。世。才。と。肩。智。
能。と。旨。と。密。策。東。隱。匿。甚。る。と。す。一旦。有利。あり。と。へ。も。機。變。所。以。ふ。事。破。れ。か。至。ら。居。所。の。
孰。う。あ。る。那。揚。震。四。智。誠。守。ぶ。後。悔。を。廢。る。を。理。は。体。地。京。も。解。出。前。と。老。瘦。の。如。た。わ。
機。變。破。れ。あ。り。更。一。毫。も。私。慾。す。苦。節。孤。忠。の。所。れ。え。が。香。」
と。身。後。か。送。る。然。機。變。破。れ。あ。り。更。一。毫。も。私。慾。す。苦。節。孤。忠。の。所。れ。え。が。香。」
と。身。後。か。送。る。然。死。も。う。の。ハ。福。わ。生。り。と。久。く。恥。ま。た。を。禍。鬼。の。來。路。を。推。せ。定。正。主。の。招。く。所。只。利。好。ミ。く。
飽。と。見。れ。が。そ。の。身。の。慾。不。相。憚。ふ。僕。人。」
あ。親。愛。し。そ。の。賢。妻。忠。臣。の。諫。と。聰。矣。武。毛。信。越。の。四。个。
國。を。有。う。が。ら。終。お。百。許。人。あ。る。敵。小。追。れ。城。と。陷。れ。士。卒。咸。離。散。と。賢。妻。忠。臣。刀。伏。し。み。分。
か。菲。薄。を。省。て。持。資。親。子。用。ひ。矣。管。領。ハ。只。名。主。そ。の。家。是。よ。衰。和。殿。あ。理。城。よ。く。
悟。れ。這。里。走。戰。殺。走。く。で。存。命。て。主。君。不。仕。諫。め。主。君。の。惑。ひ。を。覺。ま。忠。孝。兩。重。う。金。筋。
べ。お。助。言。不。似。れ。る。我。苟。や。も。守。如。叟。と。一。面。の。交。り。あ。う。す。の。與。尔。理。と。推。て。い。る。エ。セ。る。る。と。

み。る。念。ひ。か。ず。と。眞。取。懶。切。不。諭。一。方。理。れ。れ。孝。嗣。答。難。ウ。沈。吟。一。方。頭。と。掠。げ。う。領。だ。く。
現。う。る。方。大。饭。王。和。漢。も。今。も。昔。日。も。敵。の。為。給。れ。て。命。と。殞。ハ。珍。一。仇。の。為。諭。さ。れ。
死。す。と。ハ。浴。さ。か。え。あ。き。未。曾。有。の。好。意。氣。も。復。ひ。る。死。所。あ。る。這。里。不。留。り。一。隊。兵。ハ。皆。腹。心。の。毎。
中。そ。我。親。の。忠。義。表。死。せ。ど。惜。む。と。ゆ。ゆ。ふ。篤。れ。今。あ。の。問。答。も。憚。む。と。急。急。既。ふ。和。殿。
ハ。れ。る。那。楊。震。が。四。知。と。以。へ。小。子。敵。と。對。陣。あ。る。征。前。一。條。も。射。牛。さ。て。長。談。緩。語。そ。
罪。ハ。沈。そ。獄。卒。の。み。死。折。這。里。走。戰。殺。せ。ぎ。し。と。後。悔。を。と。及。ん。と。推。辭。む。ぞ。毛。野。ハ。云。云。と。
み。不。諭。さ。と。欲。せ。そ。道。節。恢。毛。聲。ゆ。立。て。其。頭。の。遠。慮。ハ。然。る。と。益。く。定。正。惑。ひ。竟。お。醒。
ざ。這。里。毛。陣。殺。あ。り。よ。こ。そ。の。義。烈。と。か。り。ん。我。け。の。戰。不。よく。敵。と。殺。せ。ハ。獨。管。領。定。
正。と。敵。を。果。失。を。與。る。ふ。を。漏。そ。ハ。幾。千。人。歿。ふ。あ。な。く。と。我。心。不。喰。ん。や。遮。莫。定。正。走。る。六。八。
我。を。盛。首。を。捕。り。豫。讓。が。刺。る。衣。を。優。先。と。和。郎。死。え。ハ。ダ。ラ。死。ね。我。大。刀。ハ。雙。見。般。さ。つ。

又世の邪魔を征す。織田家の家臣をも。孝列忠義の後生を。數々刀を持さん。和郎
う。這意と會得て大阪が意見不就。目今食ふ事なき東西をあれ。ひそく後方へ立す。
あ馬を。指招げ。雜兵が立ちて。遠く牽寄す。馬の傷を駐め。又孝嗣がうち對
ひ。河鯉生此は仁田山晋五が無る馬。嚮晋五と射て落し。雜兵们が捕せられ。我軍
用の資ふきて。進退は自由となる。今やも仇へ走り。軍散て。又用る所す。和郎這馬うち
跨ぐ。逃る。王は趕着。敵を捕れ。躬方の馬を。ともに復せる微功とする。と諭す。後方を乞
かす。雜兵が持くる。盛とやまと食ふ。抗て。あれは是首級交換。和郎が王の頭鎧を。和郎
忠孝の愛あらが。獲る。まほき東西を。日々過ぐ。明日高畠へ來て食む。然らち
做も。主の恥辱を隠す功ある。这里ぞ死考が勝ら。やく。とうら。件の馬。板橋。
頭へ。牽向て。尻を。磯と撻一打。馬の怒地。駄驚。橋を渡て前面へ走す。孝嗣が會
えり。道節毛野門うち對ひ。教諭殆感謝不堪。仁義の敵。史胸の劍も。鉛をうちも向ふ
駐めり。

由る。然らばの俊立別れと答て。躰で眉尖刀と雜兵を持り。角弓左より機合と
うち跨れ。隊兵们が立あらむ。轎子の戸と圓籠で。起きて徐々昇て先を立す。孝
嗣元をえりて。馬を拍れ。兩手番輪馳と。邊へ。弓が箭刺ひ弯固め。まれ大山道節忠
與君夫人の仇父の怨。且我君の會稽の恥。異日の戰ひ。雪んと欲す孝嗣が折言の征箭前へ懲
そと名告ゆけ。標と射る。見的狂矢。道節が背後ふ粒方椿櫓の。即は。矢弦矢と射入る。本
事ふ感する毛野道節。憶を俱ふべて。連射うち微妙の弓勢。の樹へ則忠與们が廟宇ふ
象。是狗椿節へ。則是道節。當意即妙歌人の風流ふ優る。進止あり。を。快邁ねど
聚合。雜兵们を。齊一嘻と嘆賞の聲耳を合て。憎々。互連敵やと稱へ。却説毛野道節。
舊の也。退れ。自餘の大士们相勞ひ。這那の問答を最愛す。こそ感する。ぶ中。サト小文吾。



毛野道節ふうち對ひて。早裏ふ荒茅山の急難よ。我們四方へ離散と。諸國と偏廢せ一折あ
遇ふ所の者知音ふあらず。よくハ皆是万人の。獨越後の長尾の家臣稻戸津衛由元のどを
治ふ。且長尾景春の奶奶般大刀自へ傳聞の訛舛を。我們を憎む。執念深く過ぐられる。
耶智奸惡の婦人ふある。北越數郡を威服し。その手は不杆城とす。夫女丈夫とふ不廣
が。這主従と除く外ふ稱を冠りのまろ。今亦茲ふ鮮虫目前と。守如親子の良善も。那般
大刀自と由充の上ふ出る。継寃家の眷屬とも。一旦吉之の錯。主従刃伏。最惜る
死ひふそ。とひ現へ大角ハ共侶の點頭て。然え扇谷定正ハ軍師。内管領。巨田持資も
まく。そを退けて敢用ひ。又内室ふ鮮虫目前の賢才あり。又老黨ふ河鯉守如の忠誠ある。看れ
ども悟ら。听けども用ひ。只縁連們の奸佞人を。專信用を。不も。武威年々不衰。て。恁地敗績
あり。七歳と。え。五里裏ふ大塚大山を。留んと欲へ。方甲斐の國主武田信昌。又家臣甘利亮
元の。更と。賢を愛す心あれど。ひま。抜革と。もふ足りん。只捨てて。孝嗣の。倘我們と同

因果の天縁約束。事のまづ。大お隊に入る。だかの。夏きの。送憾。じを。道節。即ち背に。間話
休煩襍尚要緊の。す。あ。す。ふ。禁ら。貌改め。化と有種。から。對ひ。落鮎生。昨。我軍
令を相定。そ。和殿。小船を守ら。誰が許。る。陸。登。敗走れる。敵と。轂。る。我。一百の隊
兵を。お。て。仇と。討ち。城を。抜。り。和殿の。帮助。不滿。を。へ。よ。和殿。漫。不。軍令。と。破。そ。の。罪。と。糾。さ。る
あ。べき。豫覺期。の。夏。き。秋。と。敦園に。猛。く。遣。う。有種。駕馬。跪。て。宣。趣。理。う。在下教諭を
蒙。ふ。と。衛成。と。も。用。ふ。ある。ふ。あ。と。躬方の。利運。と。や。く。敵の。難。兵敗走る。と。と。分明。亨
けれ。倘定正と。轂。漏。と。と。や。あ。ん。と思。ふ。ぞ。送。される。薪水。帆。公。を。さ。へ。相。具。し。品。草。の
原。ふ。敵。と。轂。と。果。と。寃。家。定。正。と。遅。留。な。けれ。も。小。勢。れ。が。朽。惜。く。も。続。め。從。類。兩。三。名。を
轂。捕。る。と。ゆ。る。と。併。亡。君。の。與。寃。家。走。下。と。思。不。意。の。駆。さ。狂。ひ。と。那。軍。令。と。不
れ。す。ゆ。き。許。ま。せ。變。か。と。陪。話。れ。ば。介。小。文。吾。現。ハ。大。角。も。共。侶。の。道。節。と。相。寛。解。を。這。人。仇。を
漏。ま。と。漫。ふ。軍。令。と。犯。一。さ。の。罪。輕。ふ。わ。ね。と。昨。タ。百。の。隊。兵。を。速。ふ。俱。一。も。走。一。の。戰。

たま ひを賛せらる。も功も亦莫大々。這功より。那行ふ根真許をもけうあ。ト。もの義をも義引ひ。おれ
と異口同話勸釋。一が道節僅か點頭て。酒家兵權と旨とす。みづく。驕昂。争ふあ。軍令
忽ちと死。坐率是より。怠るべ。敵倘敗勢。身と雪むと。猛ふ。ヨリ勢と驅催。そ引返。奉。擊つ
と。も。ぐ。躬方の英氣。ゆ。び振ひ。をと束ねて。稽小。今軍令と正く。奉。事毫毛の與。を。差
ど。衆兄弟の請。所。の理あれ。黙止。を。異日。の衆議。繫依る。既の。と應て。有種ふ。も。對ひ。く。
和殿の罪過。輕柔。あ。ねと。權且。諸大の意見。統。就く。我今。もの罪と。糾さ。速。船。が還。そ。衆人を。苦
ね。酒家ハ。諸大と。共。侶。よ。五千。子。よ。赴。にて。大塚。と。ねて。凱陣。せ。矣。の。義。を。行。忍。ち。重。ひ。そ。と。名。れ。一。音。種
い。多。く。三。どう。あ。り。そ。を。免。け。の。い。を。タ。へ。と。き。ま。う。ら。尤。怡悦。ふ。勝。を。言。義。考。追。絶。け。り。當。下。毛。野。の。櫻。一。く。道。節。け。と。談。考。す。大。塚。生。の。奇。計。を。う。幸
こ。す。を。し。や。う。う。と。て。先。子。既。ふ。敵。の。あ。い。と。も。那。河。鷹。の。義。を。も。又。は。我。身。ぞ。る。各。位。と。俱。ふ。那。里。あ。到
ら。ん。と。忍。ひ。之。處。あ。今。よ。う。与。之。七。主。と。俱。ふ。船。は。在。そ。凱。陣。と。も。ん。き。れ。各。位。も。亦。速。ふ。退。だ。く。
う。を。う。も。馬。も。も。あ。だ。も。と。お。れ。の。起。喰。座。と。お。あ。も。あ。う。さ。ー。キ。海。は。浮。な。と。妙。と。走。一。頗。ふ。扇。谷。の。曾。領。正。必。是。忍。闘。の。城。と。投。て。走。り。や。あ。ん。這。里。よ。り

卷之二
考那里的路の程二里よ過る。考那里的城兵をもて東へ推寄あるとあく。初の戦ひと同トか
ら疲勞する。我小勢とも新隊の大敵當ると危とも最取危候べ。然でも西北ふ大塚の城
あり。赤塚石濱の援あらず。又鷺鷺品出槐河肥の諸城あり。過ふ五十子の兵火を観近だ二三時
刻の程遠也必通宵走り。援の軍兵もあらず。まことに思ひ難が。と意に屬れ。道筋に躊躇して
寔ふ微妙もあれど。と大塚を告知して。其侶ふ快凱陣せん。和殿の素より。那義を守る。船乗等
をり。も亦人の及ぬ所。宜くその意ふ儘。と應て。も智ふ服け。余ば莊介小文吾現八丈
角も共ふ毛野を稱す。親疎恩仇方殊す。も一早人と約束を。その信。失ひ。且敵を知り已と知。兵
法も亦軍師の才あり。然ば。仁義八行の五の内中也。智。字を。も。以ある。と。只顧感。と。已
ざむ。慘而落點有種。五六赤壁。別れて。毛野と。眞。ふ。の。身の隊兵五七名。も。そ。立。と。高
驥の瀆。退く程ふ。肚裏。ふ。も。も。約莫。け。の。戰。ふ。大山。武威。と。赫。を。そ。い。我。帮。助。ふ。薦。を
す。と。今。我。倘。も。每。舊。好。の。軍。兵。を。驅。催。と。船。と。柴浦。寄。せ。ま。わ。那人。義秀。親衛。勇

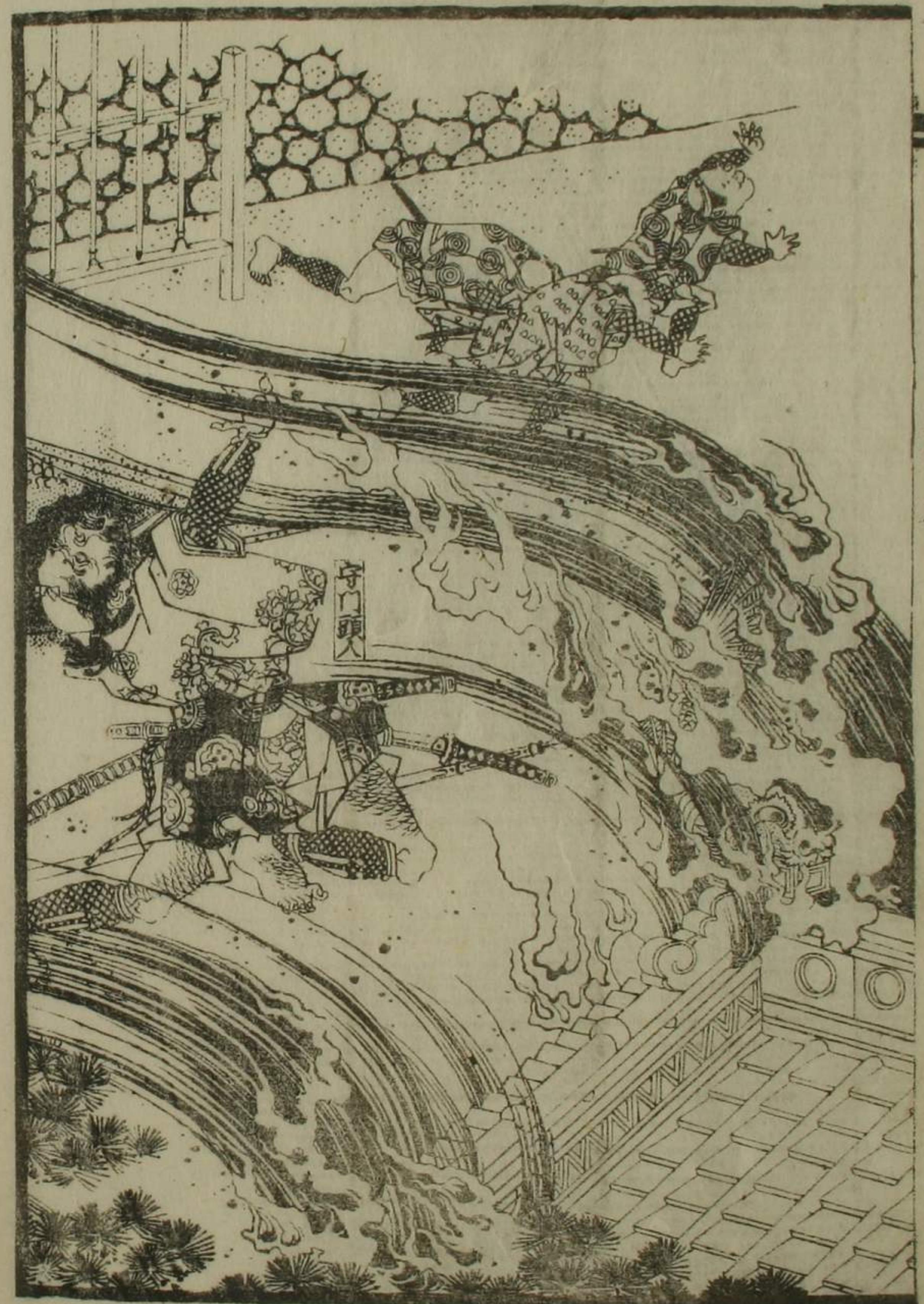
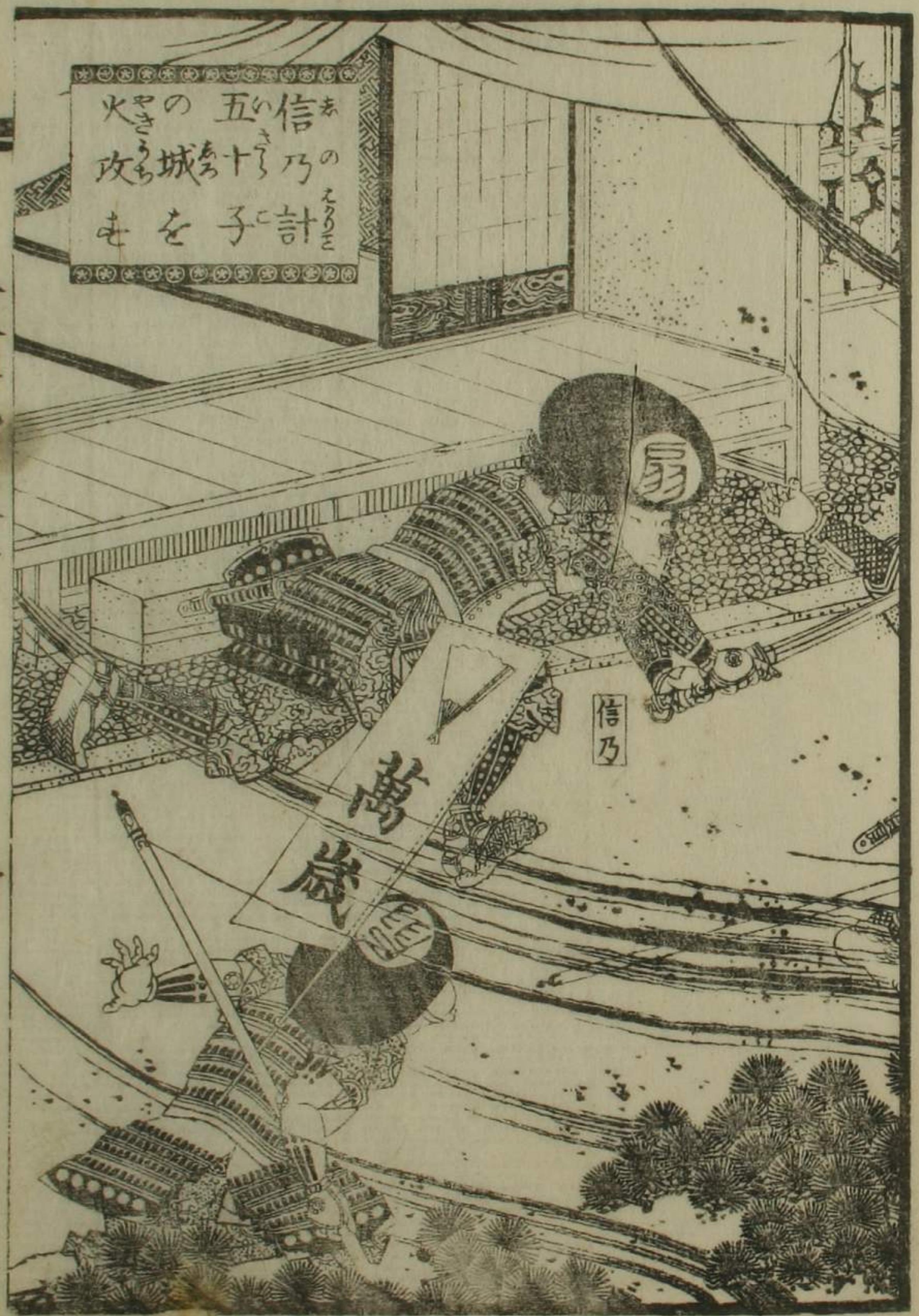
ありとあらゆること。三百有餘の敵兵と獨戰して勝つ。あもんや。僕れべ功を我ふ譲り。上席ふ
こそ居ぬがれ。思ひうつふ然ひきくて。我軍人等違ひ。外見此も惜さず。是英雄の眞面
見。の賞罰訓。親疎。名將の送風あり。とちりま。我那人ふ叱られて。一旦腹の立まる。今ち
思へ。恩知らず。我軍兵と驅催て。大山氏と負げ。美智是亡君豊嶋殿の死心と雪ん與る
まが。の神速と恩み。何等の功ふ誇ん。我愆。謬ち。且管慚愧後悔。と。七本と。敵
と。更の始。弥増け。況件の光景。ども。もせ。隊兵们。道節が。賞罰の正一。かく。舌を掉
そ。寔。稀有の豪傑。あらぬ。猛。勇士。ふ從。我先せの怨を雪る。よひ。かく。と。嘆責。と。怠
ろり。の。す。余程。道節。ハ。先隊兵。ふ。纏。要。戰。飯。と。披。と。躬。方。の。戰。殺。も。索。飯。と。快。幸
子。食。べ。と。そ。莊。介。小。文。吾。現。ハ。大。角。這。四。大。主。と。其。侶。ハ。草。の。結。繡。草。小。學。と。占。て。累。飯。と。其。物。
大家。飢。と。繕。ひ。不。題。更。詰。表。大。塚。信。乃。成。奪。ハ。櫛。大。山。道。節。と。其。侶。ハ。六。十。個。の。隊。參
従。て。休。て。谷。山。の。樹。蔭。ふ。在。既。而。て。道。節。ハ。伊。山。晋。五。主。僕。と。射。て。人。馬。共。生。拘。折。辛

子の城の動靜を見て來よと遣さる。間諜の雜兵が走りかへて報すやう。縁連が數あれ。多の伴
當門。袋名役五十子の城逃て來る。吉又佐々と訴へ。久城内騒動大をも。管領をひく。みどり
豊勢をねて大阪生们を搦捕せんと。出馬の準備といそよ。倦れ。今とも程も。管領這頭と過
らるべ。脚小心あれか。と。お道節をひの。身を憶む。額ふ加え。料ふ倍する車ひる。定正みだり
ひで。こ。さうださ。うちと。ま。もり。やちと。いぬひの。ひじひと。まそら。ゆきう。あ
せて來。校毛を轟き。捕る。鈴の茂林の頭ふ在る。犬飼犬村一隊の士卒。大阪の與ふしも。ひと勤
あよ。巣毛と。ま。まき。ま。まき。ま。まき。ま。まき。ま。まき。ま。まき。ま。まき。ま。まき。
素及びて。潛る。居と。警えり。先や。犬飼犬村ふ謀。合毛を定正と。前後より攻撃。毛と。情
地ふ一個の難兵を。鉢の茂林へ遣して。件の貳の趣を現。八大角ふ告。登時信乃も肚裏。一
計を思ひ。起せ。う。道節ふ悄語く。定正みづ。緝捕の與ふ。豊勢を。毛と。車毛と。五
十子の城内。毛不二三千の士卒あるべ。然べ和殿の計ひ。定正前後小敵と受て敗北及
ん。折多の軍を。城内へ。え。多く加勢の兵を。生きて。毛と。折角方。小勢。神威。怒境
を。あ。見え。せう。う。か。あれ。これらひ。と。毛と。と。ちどり。ひまつこ。まろ。と。も
方位を易て。勝利反て大敗と。毛。酒家一箇の籌策あり。箇様。毛と。五十五子の城を拿ん

。と樹と拔。枝を拂ふ。易うあべ。と解。示せ。道。即斜を。も妙。ひそかに。宴は。勅。封。更成る時。我。も亦。後安。く仇を。轟きん。快々。準備。を。あらひ。ど。そぐ。る。隊兵。を。二千。許。名。引。分。て。悄々。端。ふ。信乃。徒。り。と。五十。子。あ。る。遣。けつ。不。程。ゆ。大。塚。信。乃。の。道。節。公。射。て。虜。男。あ。る。仁。山。晋。五。の。伴。當。を。駆。て。テ。と。り。ひ。じ。ま。え。と。參。め。う。る。る。る。身。邊。へ。率。坐。ま。そ。詞。徐。ふ。鞠。る。す。汝。素。よ。る。晋。五。が。伴。也。大。塚。よ。う。率。ま。け。る。族。亦。辛。子。の。城。兵。を。教。名。り。何。と。喚。做。る。汝。も。命。い。惜。か。べ。と。我。計。畧。小。從。か。て。もの。を。吉。く。做。む。と。あ。る。命。と。饑。ひ。き。を。空。裏。く。賞。祿。を。食。ま。げ。て。愚。ま。で。招。せ。甚。麼。を。と。向。れ。て。件。の。伴。當。の。權。氣。を。高。き。要。相。躰。を。考。額。と。う。死。て。刀。孙。们。上。あ。在。考。ふ。何。ど。搗。鬼。と。裏。死。而。鄉。嚮。ふ。小。可。仁。甲。山。刀。孙。と。共。居。ふ。邊。ま。と。も。の。こと。も。那人。の。伴。出。あ。い。び。越。杉。駱。三。主。の。難。奴。也。外。道。二。と。喚。を。者。え。原。の。白。金。の。土。民。多。り。と。軍。役。の。與。ふ。驅。へ。れ。て。年。來。五。十。子。の。城。内。不。在。今。番。館。と。よ。龍。山。主。の。三個。の。元。使。と。相。模。の。七。條。家。一。遣。ま。る。ふ。よ。う。小。可。も。起。わ。の。伴。人。足。ふ。充。ら。れ。越。杉。王。ふ。隸。ら。れ。る。命。と。饑。ひ。き。を。か。れ。よ。む。ち。も。も。先。を。も。に。よ。き。ま。る。ふ。る。と。か。る。陳。主。を。信。乃。ハ。皆。を。領。て。然。し。ば。索。解。ね。と。雜。兵。が。外。道。が。鄉。縛。を。仰。付。ら。う。さ。か。れ。と。か。る。陳。主。を。信。乃。ハ。皆。を。領。て。然。し。ば。索。解。ね。と。雜。兵。が。外。道。が。鄉。縛。を。

釋競。俱と吉田殿の上へ赴く。外道二り幸ひ。脚の矢傷り斜痍。左の杖を引裂して瘡包を杖に替へ。そもそも俊信乃ふ從ひけり。俊而信乃り二十個の隊兵を俱とて。向路より惜ら地雷高嶺。赴る程。奥樹陰下潜伏て。權且時分を俟う程。既に定正。士卒二百餘名を麾て走を鎗の茂林の上へ。赴たゞきと分明。矢を。戦ひ。多く敗れけ。士卒忽地乱噪。死て五千手の者を走る。棄する。標幟鎗眉尖刀。草鎧を身に付す。信乃り。每あて牛と是究竟と。雜兵を牛と遣す。拾ひ。食し。その武具を着せ。標幟を挿せ。元糸くる城兵が逃がる。似く余扮。準備の足や。菜と竊か持つて。然而外道二り。僕と計策。其を示す。一町許先ふ立て。大家ひとり五十手の城を投ても走りける。余程外道二り。信乃り。籌策を從ひて。五十手の城を走りかる。是より先定正を從ひた。士卒數名駆走を。多くから来て。大山道節勇戰。戦ひ。趣射。既に戰負。て。轂を注進分明。秀けれ。城の士卒駆謀。前後の城門を銷固。を。叩か入る。許。を。を。加勢を軍兵を。まわる。既て議。程外道。忽地か。多く。城門を敲む。喚する。小可。是當城の難兵外道二。鎗。茂林。戦

免き。をも。うへ定正。あま。ひ難義。及びて。上。す。雷危。れか。武具。脱棄。ひ。審。謀。者。必。死。辛。を。自。手。か。帰。城。安。全。る。快。と。城。口。を。うち。開。て。入。れ。そ。ま。と。叫。ふ。毫。正。門。を。成。る。頭。人。某。甲。よ。土。鸣。城。櫓。の。登。り。て。く。と。看。且。素。城。内。身。雜。兵。が。伴。の。外。道。一。と。奴。謀。と。認。も。も。あり。と。へ。現。疑。ふ。べ。も。わ。ち。が。後。不。跟。て。近。着。來。通。士。卒。千。名。許。あ。標。幟。武。具。の。色。悉。も。躬。方。ふ。紛。れ。至。下。が。原。來。館。と。い。那。内。中。か。潛。ひ。御。座。を。爲。ん。と。奪。も。猜。り。そ。些。も。礙。議。せ。ば。邊。く。走。下。そ。却。雜。兵。们。下。知。る。心。門。戸。を。用。せ。り。登。時。信。乃。千。個。の。隊。兵。を。従。ひ。先。あ。立。て。找。い。か。の。ち。え。い。か。の。ち。え。さ。と。入り。と。那。頭。人。ひ。不。曉。得。白。雜。兵。を。後。方。ふ。退。り。跪。居。て。迎。刃。と。う。と。信。乃。刀。と。抜。く。て。身。も。で。射。只。一。轂。ま。不。砍。仆。せ。ば。駭。慌。る。雜。兵。を。又。西。二。名。砍。伏。せ。そ。名。告。知。る。聲。も。卷。く。煉。生。よ。え。う。の。聲。も。う。せ。か。た。ど。も。馬。の。殘。黨。大。山。道。節。忠。與。が。義。義。兄。弟。大。塚。信。乃。成。孝。を。ふ。在。り。其。も。亦。大。父。近。作。三。廢。主。君。す。け。故。鎌。倉。の。宮。領。持。氏。朝。臣。の。兩。公。子。春。王。安。平。の。奉。為。ふ。喜。茹。士。の。怨。と。復。え。主。命。惜。く。城。兵。们。降。參。せ。よ。と。罵。懲。一。と。向。ふ。前。急。大。刀。風。城。の。雜。兵。辟。易。と。忽。



よふん すみへり りどもひつけ みま ひ け あらみ
五千餘名あり。即便ちの兵毎不吩咐て水と汲せ火と滅さる。素より案内あると見立桟船
便利又隊兵をも部して。前後の城門を戍さる。火の鎮ると見る程。近浪速坊賈莊客
们。五千手の城と敵の為。攻落されと知る。失火をと思ひ。大家もく棒と袂と糊瓶
柄長闇扇を携て。那遠より走駆ひがる。兵火のよどゆ知り。且駿馬に且怕れて逃去しんとあ
け。信乃へあくも城兵を外不出喰禁めよと示し招を入れて。城兵们を相次見て餘燐と鎮むべと
命ぜ。件の坊賈莊客們の戰栗庫を愛す。袋卒苞の戰栗と煙と取ま滅留め。既ゆそ
ちも。命め。あまひとゆせら。ひきうちうけ。けり
那這の猛火を駆逐。鎮めければ。信乃へ故老の莊客と里正们を喰近着。年來扇谷定正政事
うちや。あきくぢう。え。ひづるうちやまうつ。あいとう。けんへい。
好々と向ふ。大家実を吐ぎるとあも。近屬龍山縁連。出頭して。權柄を執り。よう貴調を重
く。民の艱苦と憐まざ。然うでも年々の軍役。耕作の時と失ひ。酷吏の惨害堪ざる。あの
やゑ。あひこ。う。つ。ひさ。こをも。み
故紫或は子を售り。妻と鬻鼎など。凶吉の慾不充るとのひげ。信乃へこれをうちて。嘆嘆不
可。こうさんせきひふら
堪。降參の城兵们を。多くとアヌス。若们も亦これを知る。苛政ハ虎より猛る。定正累世の

よろこのの色と。さきをあわせ。とて。そこへふ。あの。いすの。やうなまこと。
主そぞ。衆人へ送ふ面と注し。速め答難あり。信乃へ事あるもの意と猜して。微すこ失ふ
ら諭す。若们今救ひ。我賜を受るとふとも。舊の城主のかず東。外不遇をと怕れ。首
そり多くえ。あも。否。う。こうべいさん。免だ。つま。ひき。こ。う。ふく。あむれん。み
鼠兩端の愚ひと做を教。這米錢。若们。妻を鬻。南北子を賣りて。苛刻の重斂ふ調だ。ふ
あ。ま。我當城を攻陷。一妻妾時も當城ふ存するを死。金錢米穀いへゆる。若们。亦我民
ふれ。我一日の父母と。きどふ。這民を憐。ざる。今。我獲る東西をりて。毫も犯。所爲。
う。我。一。の。父。母。と。と。く。きどふ。這民を憐。ざる。今。我獲る東西をりて。毫も犯。所爲。
散と民を賑。誰う否まる。のあらん。且。這庫中。予米錢。兵火ふ焼る。へり。と。若们。つ
聚來。消防勉。るを。あり。遂。不善。多。を。給。り。その功。も。亦。賞。ま。へ。道理。は。慄。地。を。見
ど。尚。佔。あ。せんま。へ。あ。を。く。と。じ。見。腰。る。墨。手。と。拔。牛。へ。戦。粟。庫。の。白。壁。寫。着
は。數。行。の。文。を。大家。ひ。と。く。仰。瞻。る。ふ。
故。鎌。倉。管。領。足。利。持。氏。朝。臣。两。公。子。春。王。安。王。小。傳。太。塚。直。作。
三。成。之。嫡。子。犬。塚。番。作。一。成。之。獨。男。犬。塚。信。乃。成。孝。以。精。兵。方。

皆數行の文を大家ひとく仰瞻るふ
ゆのまうちきんれい。あくなじもうちあそんのト

二十名來攻本城。須臾拔之。以與父祖雪先君舊怨者也。是併同盟義士大山道節亦欲復君父之讐。是舉在資助其大義矣。吾旣已拔城毫無所犯。蓋以民者國基也。雖有金城石壕。然無民其與誰共守焉。即開倉廩而賑窮民。錄數行以畱姓名。一日主人公亦是民之父母也。累世國司。蓋憐汝之民儻有外口民之受于吾者。吾復來而屠城。勿悔。

文明十五年癸卯春正月二十一日

卷之三

文
明
十
五
年
癸
未
正
月
二
十一
日
謹
定
とぞ寫さと。里正坊賈。社客們。其仁言。听。諭書。看。孰。雀躍。齋月。一
頽。死恩。謝。恨。戰粟庫。うち。用。一座。十五間。五庫。各米粟三千苞。す。一
も。都。一萬五千苞。又。宝藏。金錢。雜貨庫。酒。餅。乾魚。枚。あり。と。よ。あ
舉。ふ。違。あ。び。當。下。信。乃。又。下。知。酒。酉。守。益。打。除。餅。残。燼。多。大。衆。人。并。ふ
あ。い。と。ま。そ。の。と。え。あ。の。き。さ。せ。り。あ。い。わ。か。の。る。ひ。あ。い。の。も。と。き。ま。

方身の隊兵降参の城兵も酒され餅まれ好ま不儘と飲しもあらずも喜む。その身僅ふ纏腰戰飯と被せて飢餓と繕ひけり。今程ふ衆人ハ部と走りか。近御隣村よ告知し。馬を牽せ車を推き奉て件の米錢と運事もあり。或の燐と免れる城の衆馬と借用を米と駆と牽出事もある。然一も山做走米と錢を綻ぶ半晌むろの程不遠多く運び盡り。登時信乃ハ里正。故老們を誠め。約莫我賑給へ。这里小聚會い。おれのまゝ總て這城小隸られる。村落も莊園も坊賣と。おれの農戶と多く田圃戸呂のミヌ寡寡小合にて漏洩多く配分せよ。若們倘一毫も勢を争ひあらば。異日我決して饒さず。おれの富族と言示せ。大家地上お辞伏て仰うけむ。汝等仁慈の賜を誰が私付ん。明日お君が生祠を村毎不建戸々お祭り。御恩と子孫永傳へ。あらん。噫ふと喜んで。お身の暇とあつて。別を告。皆共侶から連立て退りけり。

第九十五回 頭鎧を鳥く忠與凱旋走
鼓盆の悼ミ定正過と知る

浩處ふ道節ハ莊介小文吾現八大角門と其侶ふ隊兵六十名を従へ。五十子の城不來され。信乃ハ隨便隊兵ふ城門を開か。迎入れて却城攻の更の顛末計策その圖ふ當て。一戰全勝をゆる。及倉廩と用ひて窮民们を賑へ。方更の趣并ふ降参の城兵を饒へ。おまとも。その崖略を報へ。道節ハ莊介の四大士を下す。各々も听ゆ。欽約莫舊君の復讐。其の酒家本人を下す。その軍功と論られ。大塙ふ及ぶる。今よりて一級と降ら。庄介稱賛をあける。且て道節ハ又信乃ふうち對ひ。定正敗北の為休及河鯉佐太郎孝嗣。忠孝鮮目前と權佐守如が自殺の事。又毛野。河鯉守如。知己の義を思ふの故ふ辭りて當城へ來り。他が遠慮の議論を。笛様をと解ふ。我定正と趕び。折才ふ盛と射落て。裏缺ざす。おれの迷恨氣ども。和殿ある巢穴と攻破。そ。民の困乏を賑セ。おれ。実ふ紹々を。愉快の。然く。おども。堀と毀ち。斬と埋。火を滅。を。の降参們を

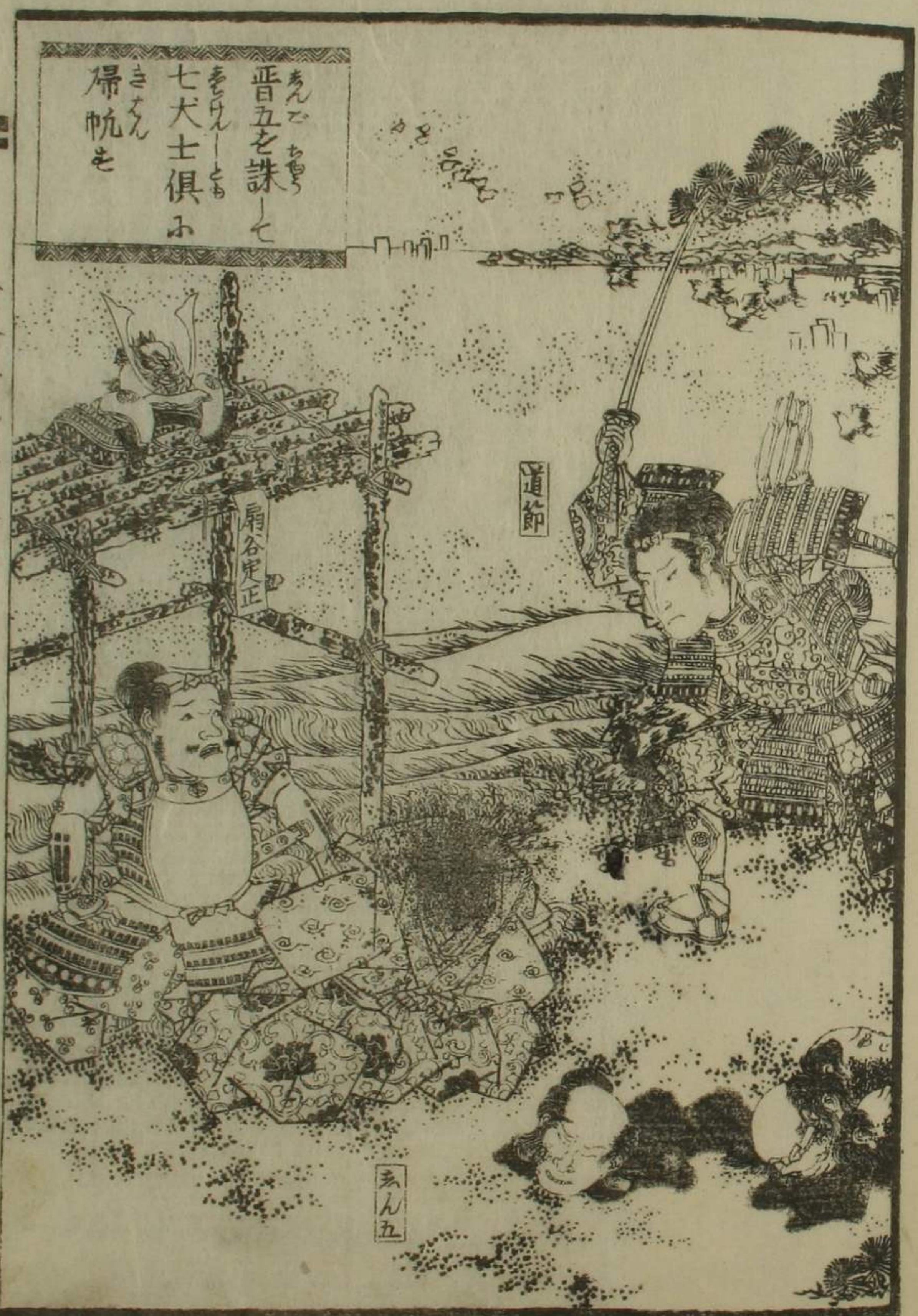
ども。當面の敵と射て相逆へざる敵と射も。常ふ神佛と尊信して皇威を憚るが世
良將と稱らば。爲朝尚あるひじきに一暴雄よ過ぎるのを。然べ世の常言ふ窮鳥懷ふ入傍
と。萬夫もこれを捉へどより。何ぞ降參の城兵を誅も。死経塲を毀り斬と埋ると。我們は
这里と立去り。明日より又修復せられて。嘗領必かへう住ん然とが勞とて功を乞う。といへ又薪
小文吾現ハ。道節と俱ふ諫め。大塚犬村西兄弟の既小も理と盡されまく。従んと勿論る
るべ。嚮ふ大阪が遠慮あ。近江様の諸城より。加勢あるべ充よりとられて。凱陣を急ぐるを今
速め退き。全勝と去るのを。長誼誠に。吾益不似ぞ。快々凱陣を去るを。と異口同音く。寛釋
あひ。道節即ち厚く思ひ返す。うち微笑々點頭て。有理と。衆議少從ふべ。嚮史仇と。轟を漏
せしも。隼邊しゆひる不休り。要乞言と費ト。上ふ。參友わざと。その身。令名を失ひ。モと安
聖教ハ。今我うえ。ある亦ぬ。死幸ひ。まづ。譬言。大阪毛野の如。未生の時。より。兩個の冤家
あり。并ふその面を認ら。あれど。單身を。その仇を。轟を果へ。又我仇ハ。大諸侯を。充近つた

謀易り。而り。且襄與白井の郊外を。そを刺毛とを以て。仇をあわせ。贋物。今と三四の義党
第及落魄们的帮助あり。且隊兵まへ多く泊。坐壽策乃れ。既ふ十二分の利運を至て逃る寛
家と射れ。口の頭鎧と被て。首級と獲る。も亦命殺天さる。昨日大坂で我と相と。
意仲は夙懲ありといふ。謀計遂ぐ。遂もて遂も如く。數々果たす。とその仇を死む。才ふ仇の衣と刺す。竟ふ刃よ伏れども。豫讓の義士である。害事。我の豫讓が優べ。仇を射
をあ盛と獲る。則れを首級と代え。高畠の濱ふ鳥は。君父の神灵を慰ん。今汝天と怨め。と即
き。と仰言が。すくうち不娛て心も全く後方。戰粟庫とぞえ。剛才信乃づ寫くる。諭示の文
面三番。讀復より信乃。對ひ。和殿。遠城と拔て。越ふ姓名と留め。もの意。その文極を
妙大。その才不及。左方。筆を加へ。賦て甲の合領より。蠟墨を含み。亦白壁。書
寫する。大家俱小阅する。

不誅降卒而賑民非仁耶。爲憐賢良自刃不毀郭非義耶。進退以一日。非信耶。捐功不利已。非悌耶。五口有這八行兄弟可以敵百萬騎也。誰蔑如八行者。弑君奪職丙官領先世後嗣其幸可。犬山忠與追書。とぞ寫うける。大家これふ與をみて大塚とう。犬山とら。是風流の虛文。あくせ。簡約ふして。言分明。勇士の本意不稱すと。俱よ歎唱あう。と。或四十個の隊兵さふ。歎び勇と。焼刃。稜打拍て共侶。呴と發う。勝闘の一。垂垂時。鳴も。已まう。既ふ。と道即。即。隊兵とねて。隊伍と。轍。引退んと。せ。程ふ。信乃ハ那外道二。が。躬方の與。ふ忠あれ。そと。賞せんと。尋る。ふ。他ハ。近に錢財を。奪。略んと。思ひ。漫。深入。き。き。煙ふ。包れて死う。そ。の。亡骸。と。降卒们。稍。不。か。徳々と。報る。と。信乃も。うち。听く。憶。も。嗟嘆。不堪。ぞ。那外道。二。奴隸。忠誠義烈の徒。など。只。その命。惜ひ。が。

あ。もまもて死。えあ。を。毒をもて死め。
與ふ忽地敵の向者と取つて城と陥せ。冥罰観面。まも賞祿を受ふ。身は免兵火不
支。燔れよ。難ふ臨て心術反覆敵の帮助ふる所。終へ懲りをあうけれど。件の吉凶の趣道
せら。と死をあ。節門ふ解示せば。餘の四大士も那應報の速きを嘆け。憇而信乃道節即サ禁小文五現
ざく。とも志を鬼。くのゆめ。あきが。大角ハ恨不數十個の隊兵を徒へ。高畠を投て退く程。五十子の城下より那濱鳥邊至
みちまち。あたひと毎日せまち。あの。畢竟へ。さなだ。もみちの。ひでかく。あくへん。一
ろま。その通路の坊賈莊客們の信乃が賑給の徳と稱て。俱不路傍不出迎へ。各々簷草食
こせら。き。よろこ。のぶ。あの。壺漿と薦め。柳びど演るのうち。信乃の徳也。道節も。それを慰めて。東西を受も。是より
さぬ。じうわら。ひきこ。まか。き。さ。あ。のものとろをろ。ひひけ。みく。うちよ。先不道節。五十子の城ふ來。折隊兵十名許よ分付て。躬方の戰死あると尋ね。及那
あやま。不うちひりとうか。谷山の頭不生拘措にする。仁田山正日五十九。又敵の首級を梶くづを準備させよと。準備ければ。
あをえ。あら。とも。あやく。み。さて。うちて。を。まち。と。す。ど。うちせら。の。ぎえ。ま。這時件の隊兵們。共不所役と做一果て。高畠の賓のちて在り。既而て道節們。件の賓
ベ。あを。き。あんご。ち。邊不退避來て。先正日五と誅せんと。百前則よ牽出され。正日五。鄉向不道節不射らずと
虜ふ。うち。折谷山の麓。樹幹ふ相結着られて。才ふ一個の雜兵。うち守られて久く在り。

方縋る。あら濱を牽寄せられ。自是下位むとひどく矢傷の疼楚よ勝ぎり。頭を低ても
う。登時道節へ発見を放そ。仁田山晋五立向ひ佐と疾視て汝の嚮ふ戸田河原を。
丁町進の加勢とも。寃屈の罪人額藏们を追捕へんとあら折我並日第の舊僕す。
姥雪與四郎が兩個の見子。十條力二郎尺八。戰疲れと轂を捕りて素よりその身の職
分を。主の與ふせしもあれども。虚名を求め榮利を端り。力二尺八。首級とひそ額藏信乃
と偽唱へ。自是首あて。主と給ひ。その勸賞ふ重用せられて。大石の家の家宰。做登り。小
人の天を怕れ奸計。罪と免る。所ある。那額藏。我義兄。弟。這る。大川サ杜。大川
塚。信乃も。ちふ在り。没。緝捕。そり人を。ひづ所奸曲されば。這大川。趕轂を。遂に我
箭。傷られ。則造化の配剤。也。自業自得。とよへ死の。先我。我自額轂を落。て。十條
力二尺八。が與ふ。怨を。雪元。が。觀念せよ。と責罵。まぶ。晋五。ハ。魂身。不負。を。連り。不戰。慄。之。在
下。実。ふ罪。と知れり。命を饑させ。ひひか。と。うせ。果を。道節。が。援肉。を。刃の。所。轂。されて。滾



が仁田山並五ヶ首（ひのきすけ）の屯（とん）地（ち）と立落（たおれ）おけのをと俱（とも）か看（く）る信乃莊（しのわう）介（すけ）小文吾（こぶんご）も現（あらわ）へ。六稔歷（りつ）歴（れき）ける。戸田河原の危古躬（あやのゆき）とちふ思（おも）ひぬて荒芽山眞邊（あらめさんべん）の夢（ゆめ）の迹（あと）階平（かいへい）ぐる。音立日（ひのたひ）ぐる。東（ひがし）を量（はさむ）即（そなへ）往方（むかへ）心（こころ）不（ま）かる潮曇（しおどり）。濱邊（はまべん）不（ま）立（たつ）る松（まつ）小吹（こぶき）。風（かぜ）の便（びん）くも絶果（ぜつかく）て零收懷（れいしゅはい）。之（の）へえ品出踰（ゆり）。往（むかへ）壽（ことひ）友衛（ともえ）。當時（そのとき）不遇（ふめい）。天角（あまつのくに）も善惡忘報（ぜんにょめいほう）。恁（のん）と人（ひと）を思（おも）ひ。身（み）も形（かたち）を。慰（いん）難（なん）て慄然（りきぜん）。中（なか）道（みち）即（そなへ）徐（ゆき）お刃（ののこ）を拭（ぬぐ）ひ。敵（てき）軍（ぐん）即（そなへ）徐（ゆき）お刃（ののこ）を拭（ぬぐ）ひ。敵（てき）の大將扇谷定正（おうとうせんこくじょうじょう）。盛（さかずか）と第一番東鳴（とうめい）。次不仁田山並五ヶ首級并（ひざま）數々捕（つか）。仇（ごう）の從類（じゆるい）地上織平（じじゆうへい）。末廣（すえひろ）。仁本太一階堂高四郎（じんほんたいいつかいどうこうしろう）。三浦二佐吉郎（みうらにさきちろう）。餘級定正（よきゅうじょうじょう）と首（くび）とて。所（ところ）姓名（せいめい）の知（し）る。牌（ひ）不（ま）寫（う）。推立（すいりだ）。征伐（せいばつ）終（まつ）。即（そなへ）便（びん）這頃（さうごう）。浦人（うらじん）の長（なが）老（お）と兩（ふた）名招（まねう）。示（あらわ）。我（わ）の先亡（せんむう）。煉馬殿（れんめいでん）の残黨（ざんとう）。大山道節（だいさんどうせつ）。喚做（よきする）。復讐（ふくしゅ）の戰（たたか）。大利落（だりらく）。數々捕（つか）。首二十餘級方（かた）。僕（ぱく）。頭盧（とうろ）。二十餘級定正（よきゅうじょうじょう）。般（はん）漏（ろう）。射（さ）。之（の）盛（さかずか）。獲（と）。不（ま）より。權（ごん）且（よし）首級（くびき）。代（だい）。若（わらわ）。浦人（うらじん）。

送代（よこし）り不（ま）うち守（まも）り。偷兒（うじ）を奪（だつ）れ。明日夙（ゆく）を人（ひと）あり。來（く）を這盛（さかずか）と合（あつ）ひ。ト告（こく）。遞与（たまわ）。心（こころ）折（く）ま。解（わか）。懺（あやま）。付（ふけ）。寧（ねむ）分（ぶん）。浦人（うらじん）。駭怕（ぞくぱ）。沙（さ）不額（ふく）。穿埋（うなぐら）。異議（ぎぎ）。如言（いわゆる）。然（しか）。凱陣（かいじん）。浦（うら）。澳（うら）。見（み）。且（よし）。船（ふね）。這頭（このを）。浦（うら）。七
八町（しちょう）。及（およ）。程（ほど）。澳（うら）。見（み）。舟（ふね）。躰（こみ）。船（ふね）。漕寄（とうき）。登時（とうじ）。陸（りく）。隊（たい）。兵（ひょう）。始（はじ）。ぞ。相別（あいべつ）。二
三艘（さんぼう）。船（ふね）。乗（のる）。道節（どうせつ）。即（そなへ）。并（あわせ）。餘（よ）。五大夫（ごだいふ）。毛野有種（もうのうしゅう）。同船（どうふね）。送（おとし）。餘（よ）。也（よ）。命（めい）。せ。不（ま）。輕（あま）。難（むずか）。戰役（せんえき）。一人（ひとり）。隨（つれて）。金瘡兒（きんじょうじ）。寡（さく）。誰（だれ）。何（なん）。尋（さが）。同（とも）。有種（うしゅう）。答（こたへ）。然（しか）。不（ま）。御向（みゆき）。所（ところ）。あ。主（おも）。戰役（せんえき）。一人（ひとり）。隨（つれて）。金瘡兒（きんじょうじ）。准備（じゅんび）。某（みのる）。某（みのる）。某（みのる）。某（みのる）。昨宵（よのよし）。在
下（げ）。下（げ）。無（む）。患（かん）。瘡（じょう）。快船（かいぱん）。扶（たす）。乘（のる）。看（みる）。病奴（びやう）。一。傳（つたへ）。穗北還（ほくほへん）。之（の）。報（ほう）。道節（どうせつ）。點頭（てんとう）。そ
そ。よく。計。
計。是等（ぜうとう）の船（ふね）。高畠（たかはた）。浦（うら）。約束（やくそく）。那里（そこ）。火（ひ）。あ。火（ひ）。這裏（そこ）。寄（よ）。甚

不
難ひや。向ふ有種然シヒトモ亦以あひをとる間は船の皆洋中漕浮め。小北へ走る。假
名川の水を投て急げし。道が即ひて訝り。又お故と詰り。向ふ程よ毛野へ有種の答を要す。
道が即ち對り。大山主。這船と約束の地方を歇け。故意柴浦をもとす。今又北へ遡
き。皆是酒家が指揮。と。と。不道に節眉と頻單ゆ。故に什麼變せや。と急迫に向
へ。含笑して。まぎ思ひを。酒家へ。和殿も亦既不大敵を。敵み。されど仇の種類の觸た
る。不あ。倘我往方を知る。而て扇谷家告訴せ。大軍重て推寄せ。事。折敵を
防戦。一城壕のあふ。一百を。の。小勢ども。只是穗井莊院。盾籠とも。後々も。半日
き。も。柱。縱戰役を。豪。も。我們の覺期のうえ悔不足。歎。永頃。老翁落點
夫婦。共不狩場の雉子と。做。正。も。見。所。近。之。故。我出没を。後々も。人。知
せ。と。思。そ。と。船と約束の。濱邊。轂。系。甚。苦と深く。昔。樹。遠く柴浦の。澳。あり。然べ
ま。又。羽田の。澳。漕登す。那里。そ。日。銷。夜。深。穂北。還。人。不知。れ。後安ら。へ。

あの謀を儘。一々。と。その遠謀を解示せ。道が節并。餘の五大士。も。毛野が遠慮。感嘆。
克て盛。緒。縮。世の常言。も。稱。然。また。而て。我們が心屬。所。心術。智玉。
虛。誠。感心。と。齊。一稱贊。も。信。乃。毛野の。天士。迭。初面會の口誼。と。舒。是宿因の致。心同く。意相懾。一回。と。故
舊の如。親愛。死骨肉。不異。登時。道が節。ハ。莊介。小文。吾。現。八大角。们。と。共。侶。毛
野。ふ。對。ひ。て。懇。と。信。乃。が。五十子の。城。と。火攻。此。も。躬。方。を。損。瞬。息。間。城。を。拔
て。降。卒。と。誅。も。と。且。倉。廩。と。うち。開。火。躬。民。を。賑。仁。あり。義。ある。吏。の。趣。及
戰。粟。庫。の。白。壁。生。名。を。留。や。る。論。示。の。文。の。愉。快。勇。竝。道。が。即。追。書。曰。或。誦。い。
或。談。そ。迭代。小。解。知。え。ば。毛。野。只。曾。感。激。と。約。莫。我。義。兄。弟。の。自然。ふ。宣。示。る。玉
と。俱。よ。そ。の。性。小。く。異。氣。も。孰。疎。鹵。あ。ぐ。も。あ。毛。就。中。大。塚。主。の。金。中の。紫。磨。五。裡。の。夜
光。と。お。と。も。過。論。も。う。酒。家。へ。決。と。及び。と。譽。る。と。信。乃。の。推。禁。を。ふ。と。然。り。と。あ

久や大阪主ハ文も武も。その學術の廣博也。陰陽ト筮說相まじてよきせどと云ふ事。眞
實小軍師の才也。則是禽中の亦鳥鳳毛。禪の麒麟。驥といまくのミ。且大山の剛毅也。決断
速き。犬川の行婦塚犬飼の芳流閣。その才を武勇くゆゑ。又大田へ能を顯へさせ。已ことなる
ぞ。七做もと云ふ。必是妙處也。乃德の角触石濱の窮阨是也。又大村へ謹慎老実言
す。寡くして仍ひ小貞取篤也。實是君子の人也。人心同ド。猶人面の二とべ也。眼
横々鼻の直たへ。孰う亦異うべし。あれを続る小八行の德。各々一個をゆる小廢也。我義兄
弟不在といひ。然倦れば今ゆ。孰を長と。孰を短と。また。慘論もべ。釋迦不說經孔子不
語道不似。然も。あまら太く。譽ら。が苦に隨ひ。と。大家感服。と。も。爰寔小私論不
ある。这两才子微り矣。妙批妙評。听易を。身の程々の玉不恥。然状々相慎む。優
モ。あく。と。笑奥。と。亦復餘談。及びけ。姑く。も。莊介ハ道節。情語。大坂主の遠
慮。就て胸安。落鮎生。陸不登。而。品草。そ敵を數。折名告掛。戰

たゞ。那人は足御士の女婿。我們と同ド。か。莊園居宅を敵方か知る。あきと。あく。もん
中懸。後禍を遠ま似。の。墨を尋ね。を。と。又。道節。眉と顎。も。そ。大心。つ。か。快
との。あ。と。与え。七を喰。がれ。答て。後方。と。ア。毛野。聰も側聞。て。道節を推禁。め。大山。主。も
あ。と。落鮎生。不。問。あ。も。及。べ。ア。も。落鮎。も。酒家。心。つ。を。那人。も。尋ね。ふ。敵。向。じ。名。告
す。ま。ち。と。落鮎。と。と。落鮎。生。と。と。落鮎。生。と。と。落鮎。生。と。と。落鮎。生。と。と。落鮎。生。と。
介道節。ハ。共。侶。ふ。うち。笑。て。何。ま。れ。脱。落。鮎。機。轉。ハ。ア。と。感。ぐ。折。う。落。鮎。有。種。別
船。を。吹。くる。戰。飯。と。酒。餚。を。处。険。を。安。排。で。七。大。士。不。厲。れ。別。船。を。隊。兵。们。漏。を。の
き。飲。食。を。送。る。の。勝。軍。の。祝。壽。と。做。を。程。よ。船。ハ。羽。田。の。澳。不。來。よ。け。是。よ。う。ま。で。七。大
吉。有。種。も。固。坐。不。加。々。戸。漏。くる。ゆ。あ。り。毛。野。の。み。ま。ご。知。び。り。大。法。師。の。甲。斐。を
さ。きて。結。城。か。赴。く。と。ゆ。ま。る。縁。由。又。螢。崎。十。郎。照。文。立。安。房。へ。還。り。一。す。も。解。示。一。方。を
す。こ。が。く。き。ま。す。から。り。あ。や。お。え。と。ま。ま。ま。す。く。ふ。く。へ。ど。の。お。ま。す。一。ゆ。く。う。が
中。ふ。小。文。吾。と。莊。介。那。石。龜。屋。次。國。太。が。み。及。鯉。三。が。ゆ。ま。ふ。云。云。と。ひ。生。て。大。阪。王。の。妙。方。便

そ。次國太が宍戸の縄縄を繰れんあらと呼べ。蟹目前も河鯉生も世に有り人と
争へ。那度成就あらかじめ。是の事は憾て。是の事は憾て。是の事は憾て。
ゆて大田主大川主の毛も心安らへ。昨日湯嶋の社頭より越後へ使ふ立つる妻有復六
うゆう伴士。鄭五と相處して。口は官路を急ぐ。然くば蟹目前の逝去のよし。片貝
ひがい大つづ。自へ告らす。其も前か。那使者へ越後へ到着せられ。次國太へ赦遇ひて。又那妻
殿刀。有復六。我実の姓名を知らるるあらば。這方の事の事を決して障りあるを。非
やあめのまへ。除蟹目前の逝去のよし。ゆく那里へゆると。脇刀自も亦女儀。那生則の願ひ。
次國太の命乞ひ。不しく聽ざる。倒し哀憐の心起り。速よ赦せられ。孰の方も更
成るべ。然る。疑ふど。慰められ。小文吾荘介。寔ふ理あり。と應へ。共ふ歎く思ひけり。
是等を言ひ始む。各々會話の限り。やうが春の日の長。年を暮果て。折よく甲夜間
き。是等を失ひ。辛く虎口を免れ。その隊の卒。十五名を守護せられ。刃心闇を投げ
走る。才一時許の程。那里的城に入つた。後安一と思ひ。櫛向。大山道。即ち射石折着
した。盛とて失ひ。幸ひて裏と缺だ。思ひて虚偽也。箭响の緊系。故ゆ。その外大
く腫れ。猛可。痛楚不堪。を。そ。修書院を倒臥。ゆくも。當城の諸士
驚謀。而。医師と聚合。療類の術と盡す。更に軍馬と調出。攻陷され。底五十子の
城。よう復え。設す。亦只。这里を。勁敵。責ら。あらん。矢を。四門と鎮。一銃
窓を配。外を。然。又。河鯉。佐太郎。孝嗣。高畠の板橋。敵。も。情。毛。歸
道節。至極の意見。聞く。立別れ。主君の迹。草。父の亡骸。扛。轎子。先立。馬の足。權且路傍。道場。父の亡骸。扛入。ま。

楫。不儘。而。共。侶。北。投。て。を。ま。せ。け。る。話。分。両。頭。少。程。ふ。扇。谷。定。正。ハ。高。畠。の。東。畫。處
も。大。飼。現。八。犬。村。大。角。一。隊。の。精。兵。少。趕。逼。れ。て。危。窮。及。び。折。料。り。も。河。鯉。守。如
親。子。あ。れ。拯。れ。辛。く。虎。口。免。れ。よ。の。隊。の。卒。十。六。名。を。守。護。せ。れ。刃。心。闇。を。投。げ
走。る。才。一。時。許。の。程。那。里。の。城。入。つ。た。後。安。一。思。ひ。櫛。向。大。山。道。即。ち。射。石。折。着
した。盛。と。て。失。ひ。幸。ひ。て。裏。と。缺。だ。思。ひ。て。虚。偽。也。箭。响。の。緊。系。故。ゆ。そ。の。外。大
く。腫。れ。猛。可。痛。楚。不。堪。を。そ。修。書。院。を。倒。臥。ゆ。く。も。當。城。の。諸。士
驚。謀。而。医。師。と。聚。合。療。類。の。術。と。盡。す。更。に。軍。馬。と。調。出。攻。陷。さ。れ。底。五。十。子。の
城。よ。う。復。え。設。す。亦。只。这。里。を。勁。敵。責。ら。あ。ら。ん。矢。を。四。門。と。鎮。一。銃
窓。を。配。外。を。然。又。河。鯉。佐。太。郎。孝。嗣。高。畠。の。板。橋。敵。も。情。毛。歸
道。節。至。極。の。意。見。聞。く。立。別。れ。主。君。の。迹。草。父。の。亡。骸。扛。轎。子。先。立。馬。の。足。權。且。路。傍。道。場。父。の。亡。骸。扛。入。ま。

御馬前走り。尾を曇さんと思ひ。どの空す。危窮と極まつて。追暮る敵に撃え
與す。高畠の東盡處。細小川を前す。止まつ士卒十餘名。と俱ふ必死を極め。お敵の左若
さく般も。蒐らし。相睨て在る程。敵の士卒ハヨリ勢ふき。道節并す毛野小文五郎企
集う。も聚合ひ。方。毛野の道節。君と粗穀の計較と知。送ふ。その名を喰らふ。の。三
あの折初て對面の口誼具ふ。夢見る。傍れ。那風聞。寒事。よ。昨日湯嶋の密談。道節即
く。格。偷聞を。君と犯一あり。向まを分明。意。うそ思ひ。縁連を誅せん。毛野殘討
て。むふ。されば。上様の允衍する。只計策密。を。仇。偷聞せられる。守如。跡忽の罪。ミ稟
去解免。の。されば。臣も只戦没の覚期。外。毛野と同志の勇士们と。惄の道節を
共々諫め。守如。忠誠と相憐む。天王寺。道節も亦思ひ。か。又。川を隔て。對陣を。お
登時。臣。慄え難。屡々。敵。喚々。と。戰ひ。討め。他們の銘を交え。と欲せ。只回答。不答ひ
の。毛。且道節。二田山晋五と。脣。折不獲。ちと。馬を放ち。そ還。窮勢。かの如く

免れば。是非。不及。立別れ。件の馬。うち跨り。君の先後。慕ひ。も。當城。本寧。折則
親の亡骸。路の傍。道場。預置。御安否。伺ひ。まつ。御病臥。より。写そ。う。御瘡
可。を。候。う。え。與。遠侍。候ひ。昨宵。曉。敵の進退心。極。未明。馬。うち跨。
五十子。赴く程。先。高畠。馬。找。濱邊。首耳。不。斬。梶。氣。躬方の首。二十餘
級。や。そ。中。我君の。元。盛。も。見え。最。取。惶。ゆ。食。卸。そ。を。携。て。五十子の城の光景を
見て。ぞ。敵の頭。人。大塚信乃。へ。日も。在城。せ。そ。倉廩。うち。開。て。飽。生。ふ。民。施。そ。
義。を。白。壁。不。寫。着。姓。名。留。わ。る。次。道節。追。書。も。あ。そ。文。ハ。箇。様。々。倭。少。
ひ。だ。と。一。字。ゆ。忘。れ。ぞ。誦。ち。と。一遍。誦。果。て。又。稟。先。も。住。既。ふ。五十子の大城。夷
敵。一。人。も。あ。と。離。散。せ。躬。方。の。士。卒。の。から。來。る。約。二。三。百。名。西。門。を。成。す。江。流。を。充。加。勢。せ
士。卒。と。遣。ま。れ。後。の。非。常。と。敬。言。め。ゆ。く。無。異。み。り。臣。然。も。命。惜。そ。當。城。ふ。免。れ。ま。う。ふ
も。上。様。刃。ふ。伏。ひ。一。大。阪。毛。野。も。道。即。の。支。黨。う。ら。と。思。召。す。唇。口。一。筋。の。赤。心。あれ。る。

けの毛野と道節郎が做を處。その志異されば上様の一毫も心懶れひきの姿を望えあがむもむ
らぶ賢夫人の御貞実を悟るをよりも多く義烈反て狂乱の類ふ似方疑ひの事す矣。
と爲ひもぞ存命する甲斐あればこそ今日見參ふ人あるを幸甚。薄情や敵ふ掛られるも盛
きへ食も隠して返さることぬれ。非除父が疎忽の罪也。あの身と刑戮まのとも。そひ免る
ところ。ごふとく。も。あ。
处る。只上様の御婦徳と思ひ當りせひ。父が自殺も臣する道ふ。聊稱ふよもあら。あ
ぎ。ね。と。ひと。る。も。あ。づ。よど
爰を願ひもとのこと演る言葉の本の露路未の雷留も參まく。落る涙の河鯉も清流
をき。みどりとこりうちざまん。
育わる二代男の忠孝義信。あり氣色も顛れて。後方ふ置たる被包を解か參く。恭く
坐を盛と定正。傍も惜せ。板然と且羞て。ともアキ。又孝嗣ふうち對ひ。這盛を當家の祖
先國清寺住山道昌老侯。惠頭の法皇。院号は。も。賜り。希代の老侯方
れ。命を終返と喚れ。然べゆ。昨日の戰ひ。我身ハ寇不射られ折盃子ハ聊破れられども
裏缺ぎ。以あら。只面見の家傳の盛と。寇不令まれて。剰。濱邊小掛の辯れ。と。あ
うちく。ゆふ。
あまうま。たま。く。か。
あまうま。たま。く。か。

成るよりえが。多加勢の軍兵を遣へて、後非常よ備ふべ。且焼亡れる処々と速く修復の事
平日限々。我快那里帰城せむ。西と防禦力足る。隣國の敵ふ悔れん。土本の工ふ怠
慢わく。併と若們を非難せ。その才不堪る。ゆゑに擇て工匠の司を課せよ。又解目前の亡骸
とて香華院ふ在りと。宣棺槨を造り。大衆を聚合せ。葬式を執り。又河輕守始
忠死も亦憐せ。且太子孝嗣へ我を水火の中ふ拯ひ。その功只是一人。親の本領を賜ふ。爲めぞ。
を上。守勢の葬式料青蚨五十貫文を取らし。解目前の廟墓の頭ふ守如も葬せらる。
主從既良精忠の餘烈と後不貽えと欲せ。余の古又は左又は右也。若們宜く商量せ。職
ト。東北
東善術うをとくせよ。命せらる。大家元を差り。一議及び退先。先五十子の城へ遣は。加
勢の士卒を猛可不汰て根角谷中二頭へ。あの餘城内修造の有司们十餘名。雜兵五百
餘名を從へて各々馬をそや。五子子と投て來あれば。躊躇城内を找へて殘留一士卒们ふ
瓦の兵もと。ホリとままで。まかと。ホリとままで。まかと。ホリとままで。まかと。ホリとままで。
敵の退口を回り。初て高隈の濱面。躬方の首級を斬梶られ。見ままで。とぞ知ら。とぞ

人を遣へて。今隱を欲せ。既小二日よ及び。如右其世の人を笑れん。然どと。每不措心
て。ひそく館の恥辱ふ。不を。と相譚ふ。始よ。這五十子の城ふ在。訟獄の掌を職ふ。瑞田
正門。訴稟セア奇譚あり。その至を什麼と。鞠ねふ。婦内船半。欲喰做す。強盗夫婦が。那
首の闇魔王の冥訓。恐あ。併ふ。牛を突殺される。屍骸ふ。做す。惡事と寫着であ
す。とぞ。未曾有の珍事。され。展檢使を遣へて。虚実を糾えと思ひ。ふ。那大陸狼
藉のうち。館の出馬を。よ。城を敵ふ。火攻せられて。傳光景を。那訴の虛と実哉
知ち。うち。今及ば。よ。計ふ。紫浦。展檢使を遣へて。更に虚まれ。實あれ。件の強盗夫
婦の首を。斬ら。今宵。悄す。躬方の首級を。梶替へ。看る。必疑惑。ても。亦闇魔
れ。方。灵験。と。あり。か。の。證へ。什麼と。眞示せ。大家。ひと。感佩。そ。極て。妙計。速ふ。下。と。之。
娘。便。宍粟專作と。喰做す。訟獄隸の卑職役ふ。殿兵三四名を。從へ。紫浦遣へ。那婦内

船曳が枉死の虚実を糾せず。もと京都で奇異として、圖魔の灵験灼然とひびく。もやく究る専作只顧駭嘆ト。隨便媼内と船曳が枯首と斬セリ。その時既小日の暮けど。専作門へ件の首級を高畠の濱邊に立て。然而斬鼻氣る躬方首級。咸令卸を。あ頭髻毎ふ一隻の小石と結着。情々地ノ海投沈。更不又媼内と船曳の両箇の首級を。徳首塚。寶寶島。雙島。他們が背記される。罪惡の趣。牌又寫着け建置て。大家五十子の城還り。次朝より是とぞす。或訝り或冷笑て。思評り。置品を言。何人入あらん。建弓牌一枚の短冊と糊添て。又落額と寫。其詞。牛馬日ふたの術。あべ醜郎も。美男ある。人首の入れ替。あら。例の人は癖あり。吏へ扇谷の墨吏竹。見。戯の拙策。成るとともに。僕を折る。媼内船曳が罪惡の世ふ頭れ。亦是造化。黙契。放畢竟。二兎。梶首せられ。後の話説甚麼を。次の卷小解分るを聽絲か。

南總里見八犬傳第九輯卷之二終

